

南海地震に対する高知県東部地域の交通機能復旧のあり方について

岩佐 隆

要 旨

南海地震は、過去から一定の周期で繰り返し発生してきた。

そして、次の南海地震では高知県沿岸地域は、震度6強以上になるとともに、津波の発生が予測されている。

地震や津波の発生そのものは回避できないが、事前に対策を講じておくことにより、ダメージを軽減し、災害復興を迅速に行うことが出来る。

高知県東部地域においては、一般国道55号が唯一の幹線道路として沿線市町村を結び産業経済及び人々の暮らしを支える「命の道」として重要な役割を果たしている。

しかし、海岸段丘が迫る海岸沿いを通過していることから、地震・津波による災害の発生が懸念される。

したがって、災害に伴う国道の寸断で、陸の孤島となった地域を早期啓開する必要がある。

本論文は、高知県東部地域の一般国道55号を主とする交通施設現況を把握し、地震・津波による被害想定を実施した上で、それぞれの事象毎の危険度判定を行った。

また、復旧資源の調査結果を基に復旧能力を算定し、交通機能の早期復旧を図る上での課題を抽出した。

さらに、自らが平成16年に経験した国道災害の検証を行い、危機管理のあり方について整理した。

これらの結果を踏まえ、広域連携のための幹線道路ネットワーク整備や、道路と港湾機能の連携などの必要性を示した。